

# 情報公開文書書式

研究課題名	回復期リハビリテーション病棟で使用されている栄養評価法の実態と管理栄養士配置および栄養状態改善との関連
研究責任者	西岡心大
所属	一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会栄養委員会 (長崎リハビリテーション病院 教育研修部・栄養管理室)
研究期間	承認日 ~ 2025年3月31日
研究目的と意義	平成30年度および令和2年診療報酬改定において回復期リハビリテーション病棟入院料1において栄養管理と管理栄養士の専任配置が義務づけられ、入院料2~5においても努力義務化されました。しかし、入院患者の低体重割合は入院時より退院時の方が高い傾向は2022年度調査に至るまで一貫して継続しています。このことから、回復期入院患者の栄養状態は管理栄養士を含む多職種配置(ストラクチャー)のみならず、栄養管理のプロセスに依存すると考えられます。 当協会2021年度実態調査において、リハビリテーション実施計画書に記載する栄養評価の判断基準について調査が追加されました。栄養評価法の中には妥当性が担保されている手法と、慣習的に用いられ現在では妥当ではないと考えられる手法とが混在しています。本研究は、これらの評価法の使用実態を調査するとともに、管理栄養士配置により妥当性が高い手法の採用が増加するかや、妥当性が高い手法を使用する病棟ではより栄養状態が改善しやすいかを検証するために計画しました。
研究内容	●対象となるデータ 回復期リハビリテーション病棟協会年次実態調査(2021年8月実施) A票(病院情報)、B票(病棟情報)、D票(患者情報)
	●利用する情報 病床数、病院種別、入院料種別、配属スタッフ数、症例情報(年齢、性別、原疾患、在院日数、FIM、身長、体重、経管栄養の有無)等
	●研究方法 上記情報を実態調査データファイルから抽出し、欠損値を適切に取り扱った上で低栄養や過栄養に用いられる評価手法を記述します。また評価者と用いている評価手法の関連や、評価手法とアウトカム(体重減少率、FIM、経管栄養患者の経口摂取移行率)について単変量解析、多変量解析を用いて検証します。
倫理的配慮および個人情報の取り扱い	本研究は病院、病棟に関する情報と既に匿名化されている患者情報を用いた研究であり、個人を特定できない状態のデータを解析します。研究の実施に際しては「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則り、患者さんの人権の保護に最大限努めます。
問い合わせ先	所属：一般社団法人是真会長崎リハビリテーション病院 教育研修部・栄養管理室 西岡心大 住所：〒850-0854 長崎県長崎市銀屋町4-11 電話：095(818)2002 受付時間：月～金 9:00～17:00(祝・祭日を除く)